

原子力災害とは、原子力施設から放射性物質が漏れ、周辺に被害が生じることをいいます。放射性物質とは放射線を出す物質のことで、放射線を出す能力を放射能といいます。原子力災害の程度は人間が感じ取ることができないため、放射性物質に関する基本的な知識と正しい対処法を身につけることが重要です。

原子力防災対策の必要性

●市民のみなさんの安全・安心を守るため、万一の事故に備えて、原子力防災に取り組んでいます。

大分県は、国の定める「原子力災害対策が重点的に講じられる区域(原子力施設から概ね30キロメートル圏内)」外にありますが、万一の場合に備え、重点区域に準じて、必要な対策が執られる体制を整えています。



情報収集のポイント

●正確な情報を入手してください

原子力施設で事故などが発生した場合、自治体などはテレビ・ラジオなどの報道機関を通して、住民に必要な情報をすみやかに知らせます。

●音声告知放送などの情報に注意する。



●デマに惑わされないようにする。



一時移転や避難の指示がでたら

一時移転や避難の指示が出たら、まず指示の内容をよく確認し、あわてず落ち着いて行動してください。また、どこの区域の人たちが対象か、一時集合場所はどこか、いつ集まるのかなどについて正しく情報を把握しましょう。

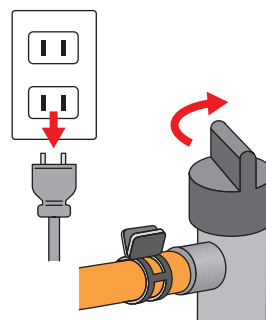
●貴重品を持って、持ち物は最小限に抑え、帽子・ヘルメットや上着、長ズボンを着用する(体表面の露出をできる限り少なくすることがポイント)。



●戸締まりを忘れずに。
●家に避難先や安否情報を書いたメモを残す。



●ガスの元栓を閉め、電気器具をコンセントから抜く。



●近所にも声をかけて、徒歩で一時集合場所に集まる。



防護対策とは、放射線や放射性物質が大量に放出された際に、周辺住民などの被ばくをできるだけ低減するために講じられる措置です。住民が受けると予想される線量が一定の指標を超えるような場合に、「屋内退避」「一時移転」「避難」といった指示が出ます。

防護対策が必要になります

防災
チェック
ポイント

外部被ばく、内部被ばくから身を守る

外部被ばくから身を守るには…

- 距離による防護 …… できるだけ遠くに離れる。
- 遮へいによる防護 …… コンクリートなどの建物の中に入り、放射線をさえぎる。
- 時間による防護 …… 放射線を受ける時間を短くする。

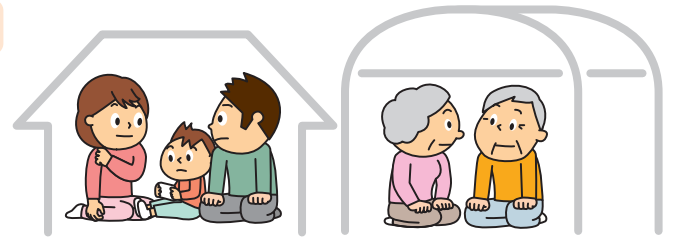
内部被ばくから身を守るには…

- 吸引防止 …… マスクやハンカチで口をふさぐ。
- 摂取防止 …… 汚染された水や食べ物をとらない。

屋内退避について

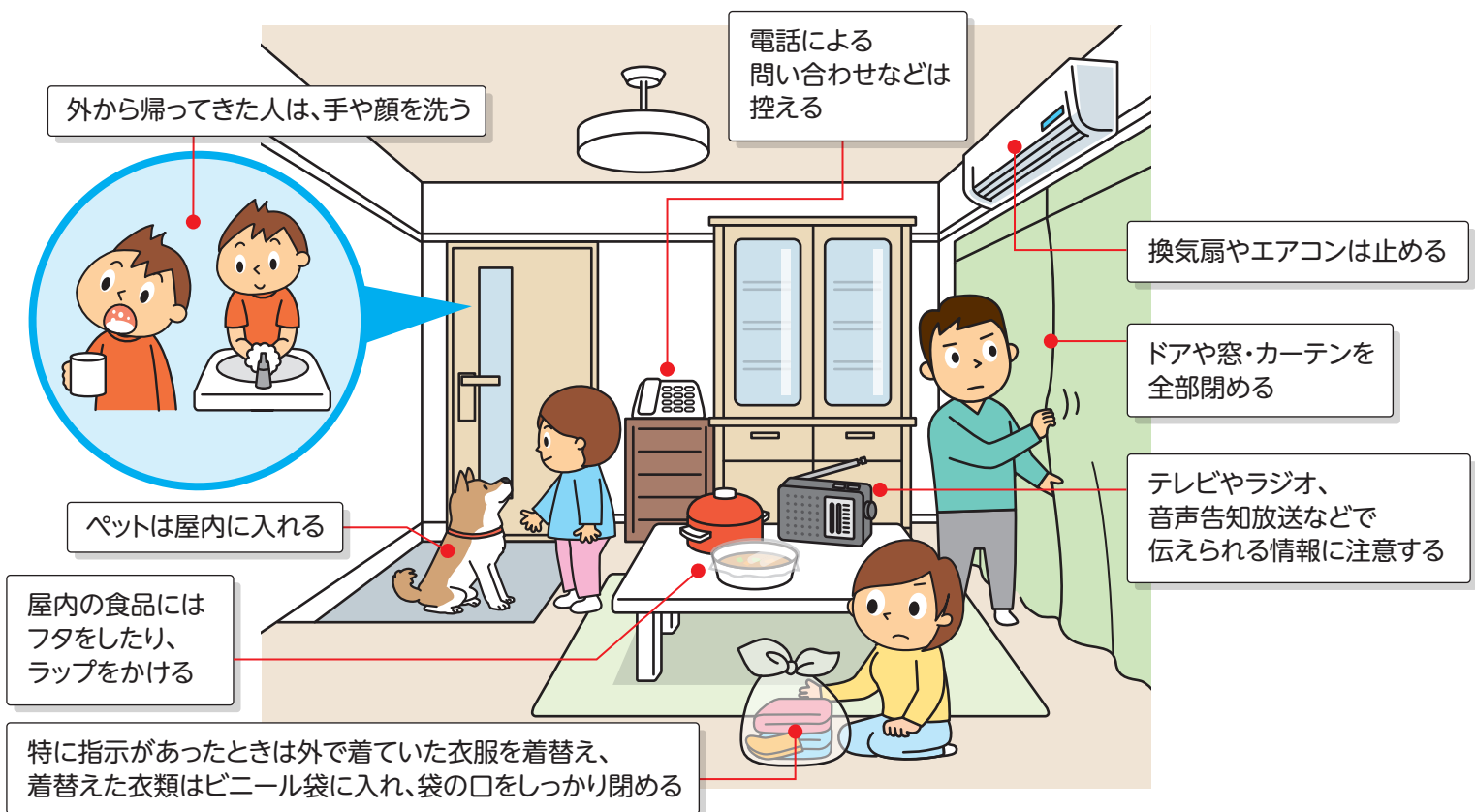
● 室内退避の効果

屋内に退避すると、屋根や壁で放射線をさえぎることができます。屋内退避には、自宅など一般家庭に入るものと、学校などのコンクリート建屋の中に入るものがありますが、予測被ばく線量が小さい場合には一般の木造家屋への退避でも放射線の影響を十分に軽減することができます。コンクリート建屋は木造家屋よりも放射線をさえぎる能力が高く、より高い防護効果が期待できます。



● 室内退避で取るべき行動

屋内退避の指示が出たら、すみやかに自宅などの建物内に入り、ドアや窓を閉めて次の対策を取ってください。



● 一時移転と避難について

避難

空間放射線量率の高い又は高くなるおそれのある地域から速やかに離れるために実施するもの

一時移転

空間放射線量率は低い地域であるが、日常生活を継続した場合の無用の被ばくを低減するため、一定期間のうちに当該地域から離れるために実施するもの